

は き
杷木林業経営研究会

福岡県朝倉市

(朝倉森林組合杷木支所内事務局)

設 立 昭和37年 4 月

会 員 男12人

年 齢 29歳～50歳 平均44歳

主なプロジェクト

- 吸収源対策事業による地球温暖化ストップ
- ボランティア活動による地域への貢献
- 間伐作業等の施業技術の向上

林業技術の向上へむけて

1. 地域の概要

福岡県朝倉市は、平成18年3月に3つの市町村（甘木市、朝倉町、杷木町）が合併して誕生した市です。面積は、24,700ha、人口は約6万人です。森林面積は13,475haで、うち人工林は85%の11,463haを占め、森林資源が豊富で県内でも有数の木材生産地となっています。

杷木林業経営研究会の活動拠点である旧杷木町は、朝倉市の東部、筑後平野の東端に位置し、東は大分県の日田林業地、南は筑後川に接し、全国的に名高い富有柿をはじめ、梨、ぶどう等、フルーツの産地と原鶴温泉の名で知られており、農林業と観光の町として有名です。

2. 杷木林業経営研究会の紹介

昭和37年4月17日に7名の会員で、先進的な林業技術の研究を通じ、地元の林業に貢献することを目的として発足しました。

現在の会員数は12名で、林業従事者、自営業者、森林組合職員で構成

されており、定期的な意見交換の場を持ち各種勉強会を行うことで会員の相互研鑽に努め、地元の森林組合と連携して積極的な活動を行っています。

本会は入会規定により、広範、高度な林業技術の研修（林業を営む上で必要な各種機械の免許、資格等）を受講し、森林施業に必要な技術等を習得した者に限定することで、高い技術水準の維持を図っています。

また、若手の人材育成及び後継者育成の観点から発足以来「会員の50歳の定年制」を設けており、常に若手が中心となった活動を行っています。

3. 主な活動内容

(1) 吸収源対策森林施業推進活動緊急支援事業

平成18年度に、京都議定書におけるCO₂の森林吸収量の目標である3.8%の達成に向けて、林研グループの活動で貢献することを趣旨とした吸収源対策森林施業推進活動緊急支援事業に取り組みました。

「あなたの山林は大丈夫ですか？」をキーワードに、林研会員が林業アドバイザーとして間伐を呼びかけるパンフレットを作成し、所有山林への関心が薄く、補助事業等の情報から遠いと考えられる高齢者の家を中心に、200軒の戸別訪問を行いました。

訪問の際には、手作りのパンフレットを配布し、経済的負担が小さくなるよう、補助制度などを紹介しながら手入れ方法をアドバイスしました。その他にも、林研メンバーが山の手入れの手本を示すための展示林づくりと、主要林道の分岐点4カ所に山の手入れの重要性を訴えるための看板設置も行いました。その結果14軒の家から反応があり、45カ所、8.3haの間伐が実施され、一定の成果をあげることが出来ました。

今回の取り組みにおいて、森林所有者に広く森林施業の大切さをPRできたこと、地球温暖化を防止する吸収源対策の一役を担っているという自覚ができたことは、非常に有意義なものとなったと思います。

(2) ボランティア活動

山野の環境保全につなげようと、毎年、市内の公共的な土地である河川敷や林道を中心にボランティア草刈りを実施しています。

真夏の草刈りは、ボランティアで行う活動としては、大変過酷な重労働です。

しかしながら、地域住民から寄せられる感謝の声と、会員の地域社会に貢献しようとする前向きな気持ち。そして何よりも会員同士の笑顔あふれる交流のひと時が楽しみで、この活動を続けています。

(3) 台風災害の復旧作業と収益事業

平成16年に襲来した台風18号により、朝倉市は203haに及ぶ甚大な民有林が被害を受けました。国、県、市の支援のもと、風倒木整理をはじめとする森林災害復旧事業等の補助事業が実施されました。

本会では、かつての森林を取り戻すべく、各会員がいち早く復旧に取り掛かり、森林組合と連携を図るなどして森林の再生に取り組みました。現在は、森林所有者等から委託を受けた、被害跡地造林を行った箇所の下刈や切捨間伐等の施業を、技術研鑽の場とすると共に、収益事業として位置づけ、ここで得た収益については当会の貴重な活動資金の一部となっています。

(4) 視察研修会及び各種イベントへの参加

毎年、県、県林業研究グループ連合会等が主催する視察研修会や技術講習会に積極的に参加しています。

また、都市住民や地域の小学生に対し森林の大切さを普及啓発している「筑後川の森を育てる実行委員会」のメンバーとしても、間伐・枝打ち体験活動や木工工作の指導、高性能林業機械の実演等を行うことで活動を支援しています。

4. 今後の活動方針として

近年は、木材価格の低迷や後継者不足の問題等により、適正な管理が行われていない森林が増加しており、林業に関する高度な技術を持つ林

研グループに対する期待がより一層大きくなっていると考えられます。

当会においても、昨年度の吸収源対策事業で得た成果と経験を、今後の活動の中で生かし、地域林業が少しでも良くなるように会員一同、手を取り合っていこうと決意を新たにしたところです。今後は、国や県の林業後継者対策を支援する事業を活用して、森林ボランティアに対し、森林整備に不可欠な林業技術の指導を行い、協業していくことによって森林整備の推進に寄与していこうと考えています。

また、地域の住民や森林ボランティア団体と協力して、未来の林業の担い手となりうる子供たちを対象に、森林学習会等の活動を行い、森林・林業に対する理解を深め、林業後継者の育成にも取り組んでいきたいと考えています。

まだまだ、材価は低迷・後継者不足等の多くの問題を抱える今日であります。「今、我々ができることは何か？」を常に考えながら、できることから一步一步前に向かって進み、必ずや明るい林業が戻ってくることを期待して、会員一致団結して頑張っていきたいと思えます。